



# 双塔

カトリック新潟教会

2024年 5月

No. 431

## プネウマに吹かれて

主任司祭 田 中 丈 夫

わたしは、今年67歳になります。1995年5月に司祭に叙階されました。出身は山形県白鷹町。1982年4月の復活祭に白鷹の実家から自家用車で約5分のところに位置する長井教会で受洗しました。趣味はオカリナ、かもしれません。上手ではないですが、オカリナを吹くのは好きです。

ところで、白鷹・長井地方は江戸時代の終わりまで上杉氏が領主で、この地方は米沢藩と呼ばれていました。米沢というと『ルイス甘糟右衛門ほか52名の殉教者』を思い起こす方も多かもしれません。しかしここでは、上杉鷹山についてのエピソードを紹介したいと思います。

若松英輔氏が『内村鑑三 代表的日本人 ー永遠の今を生きる者たちー』(100分de名著 NHKブックス p54~68)のなかで鷹山のことを紹介しているのですが、読後、感慨深いものがありました。若松氏の文の一部を抜粋し以下に紹介いたします。

「上杉鷹山は、東北の米沢藩の藩主です。藩の財政を立て直すために儉約を奨励し、農村の復興や殖産興業政策などの改革を行ったことで知られています。・・・鷹山が17歳で藩主になったとき、米沢藩は巨額の負債を抱え、領民は貧困に苦しんでいました。

当時の鷹山の姿を内村(鑑三)は次のように述べています。

『藩主の地位に就いてから2年後、鷹山は、はじめて自領の米沢に足を踏み入れました。それは晩秋のことで、ただでさえ悲哀のたちこめる状態であるところへ、「自然」が、さらにももの悲しさを添えていました。行列が、荒れ果てた、だれ顧みるものもないさびれた村を、一つまた一つ通るたびに、目の前に展開する光景を見て、多感な年若き藩主の心は深い衝撃を受けました。(中略)「この目で、わが民の悲惨を目撃して絶望におそわれていたとき、目の前の小さな炭火が、今にも消えようとしているのに気付いた。大事にしてそれを取り上げ、そっと辛抱強く息を吹きかけると、実に嬉しいことには、よみがえらすことに成功した。』

「同じ方法で、わが治める土地と民とをよみがえらせるのは不可能だろうか」そう思うと希望が湧き上がってきたのである』

・・・ここで内村は「息」という素朴な言葉にもある強い意味を込めて用いています。ギリシア語の「プネウマ(pneuma)」という言葉は、風と息吹きを意味します。キリスト教の世界では、「息吹」とは神の創造の力のことです。それは三位一体の父と子と聖霊の「聖霊」を指す言葉でもあります。

困難に対応する力は、弱き者のうちにすでに秘められているが、しかし、それに何ものかが、息を吹きかけない限り顕れてくることはない。

しかし、息を吹きかければ人熱を帯びてよみがえってくる。さらにそこに一本藁を入れれば、火はまたたく間に広がって行くだろう、ということなのです。」

わたしの魂も、消沈しそうな時に、神さまのプネウマ(息吹)によって活かされ、燃やされてきました。プネウマに吹かれていたので、今日まで司祭として歩み続けることができました。それは、これからも続くことです。

教会にはいつもプネウマが吹いています。カトリック新潟教会も、教会であるならばプネウマは絶えず吹いています。教会(Ecclesia エクレシア)とは皆さんおひとりお一人のことです。

## インフォメーション!

### ●聖書勉強会

日時 毎週水曜日午前10時、午後7時 ※5月8日より実施、1日はありません。

会場 カトリックセンター研究室 指導 田中神父

### ●信仰養成講座

日時 毎月第2土曜日 午前11時 会場 カトリックセンター研究室 指導 田中神父

### ●月曜会（秋田の聖母を通して祈る会）（野村）

成井司教のミサとロザリオの祈り（どなたでも、ミサのみ参加も可）

今後の予定 5月20日(月)、6月10日(月)（田中神父様司式）、7月8日(月)

時間 午前11時～ 指導 成井司教 会場 新潟教会聖堂

主日のミサと同様、感染症対策は個人の判断に委ねられています。

### ●お掃除についてお願い

センター研究室、2階ホール、台所は使用した方がお掃除をしてください。よろしくお願ひします。

### ●「異人池茶の間」～語らいの場～

センター1階の研究室にて。インスタントコーヒー、紅茶、日本茶をセルフサービスでのご提供、無料で楽しめます。ぜひお立ち寄り下さい。皆様ご協力の上、楽しいひとときを分かち合ひましょう。

### ●特別講演中止のお知らせ

5月18日(土)に予定されていた司祭研修のための講演会（講師：西村桃子氏）について、月刊双塔2月号から4月号までご案内をのせていましたが、都合により中止となりました。

## そよかせ便り

### ●復活の主日 3月31日（日）

第一朗読は「使徒言行録」が読まれ、聖霊に導かれた初代教会の姿が思い起こされた。福音朗読の後、成井司教が『ご復活 おめでとうございます』と英語、ベトナム語、タガログ語、スペイン語で挨拶をされた。説教の後、会衆に洗礼の時の約束の更新を促された。最後に復活の卵が祝福され、聖堂出口で会衆に1個ずつ配られ、ラッピングされた卵やクッキーの販売が行われた。センター2Fで祝賀会が開かれ、前日から準備したベトナム料理などがふるまわれた。異動される4人の神父にちなむ4択クイズのアトラクションに会場は盛り上がり、最後に、みんなで“忘れないで”などを歌い司祭との別れを惜しんだ。



# 2024年5月の予定

※予定は随時変更になる可能性があります。ご了承ください。

日	主日、祭日、祝日、祈願日等、教会の行事
3日(金)	聖フィリポ聖ヤコブ使徒（祝日） ・ミサ10:00（初金）
5日(日)	復活節第6主日 世界広報の日（献金日） ・ロザリオの祈り（9:00～ルルド前、雨天 聖堂で1連） ・小教区評議会（9:30ミサ後） ・英語ミサ（12:00） ・清掃日（センター、外のトイレ；英語ミサ後）
11日(土)	・信仰養成講座（午前11時、センター研究室）
12日(日)	主の昇天（祭日） ・ロザリオの祈り（9:00～ルルド前、雨天 聖堂で1連） ・総務部会（9:30ミサ後 研究室）
14日(火)	聖マチア（祝日）
19日(日)	聖霊降臨の主日（祭日） ・ロザリオの祈り（9:00～ルルド前、雨天 聖堂で1連） ・インターナショナルデー（多言語合同ミサ、交歓会；9時半ミサ後） ・清掃日（聖堂、外のトイレ、センター；交歓会后） ・広報部会（9:30ミサ後）
26日(日)	三位一体の主日（祭日） ・ロザリオの祈り（9:00～ルルド前、雨天 聖堂で1連） ・国際協力部会（9:30ミサ後 研究室） ・教会維持費の整理（9:30ミサ後 事務室）
31日(金)	聖母の訪問（祝日）

## ※ ミサ時間

日曜日（7:00、9:30） 英語ミサ（第1日曜12:00） ベトナム語ミサ（第3日曜12:00）  
週日（7:00、金曜のみ10:00）

月刊「双塔」毎月1回 最終日曜日発行 編集・発行/カトリック新潟教会 小教区評議会 広報部  
カトリック新潟教会 〒951-8106 新潟市中央区東大畑通一番町656  
<http://cathedral-niigata.jp/> TEL025-222-5024 / FAX025-222-5054

